

(d) 重要な種の出現状況

平成 25 年度の調査結果から抽出された重要な種は、表 3.2.196(1)～(5)に示すとおりである。

令和 3 年度に確認された重要な種は、表 3.2.197(1)～(4)に示すとおりである。

表 3.2.196(1) 重要な種一覧（魚類、平成 25 年度）

No.	門	綱	目	科	種名	環境省RL 2020	環境省海洋生 物RL	沖縄県RDB 2017	平成25年度																														
									冬季	春季	夏季	秋季																											
1	脊椎動物	軟骨魚	トビエイ	トビエイ	マダラトビエイ			DD				○																											
2					硬骨魚	カサギ	カサギ	モバウカ			NT						○																						
3								スズキ	フサカサゴ	フサカサゴ	ニラシキ			NT				○																					
4											ハサ	カサゴ	カサゴ	カサゴ			NT	○	○	○	○																		
5														ハサ	カサゴ	カサゴ	カサゴ			NT	○																		
6																	ハサ	カサゴ	カサゴ	カサゴ			VU			○	○												
7																				ハサ	カサゴ	カサゴ	カサゴ			NT				○									
8																							ハサ	カサゴ	カサゴ	カサゴ			NT		○								
9																										ハサ	カサゴ	カサゴ	カサゴ			NT	○	○	○				
10																													ハサ	カサゴ	カサゴ	カサゴ			NT	○			○
11																																ハサ	カサゴ	カサゴ	カサゴ			NT	○
出現種類数																																			11種	0種	11種	0種	5種

表 3.2.196(2) 重要な種一覧（マクロベントス、平成 25 年度）

No.	門	綱	目	科	種名	環境省RL 2020	環境省海 洋生物RL	沖縄県RDB 2017	平成25年度																																								
									冬季	春季	夏季	秋季																																					
1	軟体動物	腹足	古腹足	ニシキウス	ササガマ					○																																							
2					二枚貝	アマオブネガイ	アマオブネガイ	ケンランカノ	NT						○																																		
3								キヌタレガイ	キヌタレガイ	アサヒキヌタレガイ		VU						○																															
4											フネガイ	タマキガイ	ソメワケリ					○				○																											
5														マルスターレガイ	マルスターレガイ	オキナワシカガイ		NT				○																											
6																	マルスターレガイ	マルスターレガイ	オウキカノアサリ			NT						○																					
7																				マルスターレガイ	マルスターレガイ	オノカガミ		NT		NT				○																			
8																							ニッコウガイ	ニッコウガイ	リュウキュウササガ				VU			○																	
9																										ニッコウガイ	ニッコウガイ	ヒメニッコウガイ							○														
10																													ニッコウガイ	ニッコウガイ	コニッコウガイ							○											
11																																ニッコウガイ	ニッコウガイ	トゲウネガイ							○								
12																																			ニッコウガイ	ニッコウガイ	ミクニシホリサクラ		NT		NT	○	○	○					
13																																						ニッコウガイ	ニッコウガイ	ハスダクラ		NT		NT			○		
14																																									ニッコウガイ	ニッコウガイ	メカオサガニ				NT		○
出現種類数																																												14種	6種	0種	6種	2種	6種

表 3.2.196(3) 重要な種一覧（メガロベントス、平成 25 年度）

No.	門	綱	目	科	種名	環境省RL 2020	環境省海 洋生物 RL2017	沖縄県RDB 2017	平成25年度																																									
									冬季	春季	夏季	秋季																																						
1	軟体動物	腹足	古腹足	ニシキウス	ササガマ					○																																								
2					アマオブネガイ	アマオブネガイ	ケンランカノ		NT		NT		○	○																																				
3								フサカサゴ	フサカサゴ	フサカサゴ		NT				○	○	○																																
4											新生腹足	フサカサゴ	フサカサゴ		NT			○	○	○	○																													
5														新生腹足	フサカサゴ	フサカサゴ		VU				○	○																											
6																	新生腹足	フサカサゴ	フサカサゴ						○																									
7																				新生腹足	フサカサゴ	フサカサゴ				NT				○																				
8																							新生腹足	フサカサゴ	フサカサゴ				NT					○																
9																										二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ					○	○	○	○														
10																													二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ					○	○	○	○											
11																																二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ		LP (宮城島以北の種名)						○								
12																																			二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ		NT			○	○	○	○					
13																																						二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ					○		○	○		
14																																									二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ		VU		VU		○	○
15			二枚貝	フサカサゴ																																								フサカサゴ				NT		○
16					二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ																																							NT		※		○
17								二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ																																				NT		NT		
18											二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ																																	NT		NT		
19														二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ																														NT				○
20																	二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ																											NT			○	○
21																				二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ																												
22																							二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ																									○
23																										二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ																		NT		NT		○
24																													二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ															VU		VU		○
25																																二枚貝	フサカサゴ	フサカサゴ																○
26	星口動物	フサカサゴ																																	フサカサゴ											NT		○	○	
27																																				星口動物	フサカサゴ	フサカサゴ								DD		○	○	
28																																							星口動物	フサカサゴ	フサカサゴ					NT		○	○	○
29			星口動物	フサカサゴ																																						フサカサゴ				NT				
出現種類数					29種	15種	3種																																				12種	8種	17種	16種	14種			

※ウロコガイ：改訂版ではウロコガイで登録されていたが、改訂第3版ではミナミウロコガイとなっている。沖縄にはウロコガイは分布しない。

表 3.2.196(4) 重要な種一覧（サンゴ、平成 25 年度）

No.	網名	和名	調査時期				選定基準				
			冬季	春季	夏季	秋季	天然記念物 ①	環境省第4次RL ②	水産庁RDB ③	沖縄県RDB ④	WWF ⑤
1	花虫	ムカシヤコ	●	●	●	●			減少傾向		
2		クシハダミドリイシ	●	●	●	●			減少傾向		
3		クサビライシ	●	●	●	●			減少傾向		
4		オオササナミヤコ	●	●	●	●			減少傾向		
5		アオヤコ	●	●	●	●			減少		
合計	1種	5種	5種	5種	5種	5種	0種	0種	5種	0種	0種

表 3.2.196(5) 重要な種一覧（潮間帯生物(動物)、平成 25 年度）

No.	門	綱	目	科	種名	環境省RL 2020	環境省海 洋生物 RL2017	沖縄県RDB 2017	平成25年度				
									冬季	春季	夏季	秋季	
1	軟体動物	腹足	新生腹足	ヒノツノガイ	ヤノカモリ	NT			○	○	○	○	
出現種類数						1種	1種	0種	0種	1種	1種	1種	1種

表 3.2.197(1) 重要な種一覧（魚類、令和 3 年度）

No.	門	綱	目	科	種名	環境省RL 2020	環境省海 洋生物 RL	沖縄県RDB 2017	令和3年度	
									夏季	冬季
1	脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハダ	シロクハダ		NT			○
出現種類数						1種	0種	1種	0種	1種

表 3.2.197(2) 重要な種一覧（マクロベントス、令和 3 年度）

No.	門	綱	目	科	種名	環境省RL 2020	環境省海 洋生物 RL	沖縄県RDB 2017	令和3年度	
									夏季	冬季
1	軟体動物	二枚貝	マルスタレガイ	ニッコウガイ	クニシホリサクラ	NT		NT	○	○
出現種類数						1種	1種	0種	1種	1種

表 3.2.197(3) 重要な種一覧（メガロベントス、令和 3 年度）

No.	門	綱	目	科	種名	環境省RL 2020	環境省海 洋生物 RL2017	沖縄県RDB 2017	令和3年度		
									夏季	冬季	
1	軟体動物	腹足	アマオハナガイ	アマオハナガイ	クシロカノ	NT			○	○	
2					キンランカノ	NT			○		
3					新生腹足	オノツノガイ	ユケツノエ	VU			○
4		二枚貝	マルスタレガイ	ツキガイ	アツキガイ	ヨウラクレイシダマシ		NT		○	○
5					リュウキュウサルボウ			○			
6					オオキミノ			○			
7					ウラキツキガイ	VU	VU	○			
8					カフラツキガイ		NT	○			
9					オキナワヒシガイ	NT		○	○		
10					オノカカミ	NT	NT	○			
11					ヒメニッコウガイ				○	○	
12					ユニッコウガイ				○	○	
13					ハヌメサクラ	NT	NT		○	○	
14	節足動物	軟甲	エビ	オサカニ	ヒメカクサカニ		NT	NT	○		
出現種類数						14種	7種	1種	5種	11種	7種

表 3.2.197(4) 重要な種一覧（サンゴ類、令和3年度）

No.	科	属	種	選定理由				夏季	冬季
				環境省 RL	環境省 海洋生物 RL	沖縄県 RDB	水産庁 DB		
1	ミドリイシ	ミドリイシ	カシハダミドリイシ				減少傾向	○	○
	1科		1種	0種	0種	0種	1種	1種	1種

<重要な種の選定基準>

以下の①～④に該当しているものを「重要な種」として選定した。

①天然記念物：文化財保護法（法律第214号、昭和25年5月30日）により、保護されている種及び亜種

- ・特天：国指定特別天然記念物
- ・国天：国指定天然記念物
- ・県天：沖縄県指定天然記念物

②環境省 RL：「環境省レッドリスト2020の公表について」（環境省、令和2年3月27日）に記載されている種及び亜種

- ・CR+EN（絶滅危惧Ⅰ類）：絶滅の危機に瀕している種
- ・CR（絶滅危惧ⅠA類）：絶滅の危機に瀕している種のうち、ごく近い将来における野生での絶滅の可能性が極めて高いもの
- ・EN（絶滅危惧ⅠB類）：絶滅の危機に瀕している種のうち、ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- ・VU（絶滅危惧Ⅱ類）：絶滅の危険が増大している種
- ・NT（準絶滅危惧）：存続基盤が脆弱な種。現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- ・DD（情報不足）：評価するだけの情報が不足している種
- ・LP（絶滅のおそれのある地域個体群）：地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群

③環境省版海洋生物 RL：「環境省版海洋生物レッドリストの公表について」（環境省、平成29年3月21日）に記載されている種及び亜種

- ・CR（絶滅危惧ⅠA類）：絶滅の危機に瀕している種のうち、ごく近い将来における野生での絶滅の可能性が極めて高いもの
- ・EN（絶滅危惧ⅠB類）：絶滅の危機に瀕している種のうち、ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- ・VU（絶滅危惧Ⅱ類）：絶滅の危険が増大している種
- ・NT（準絶滅危惧）：存続基盤が脆弱な種。現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- ・DD（情報不足）：評価するだけの情報が不足している種
- ・LP（絶滅のおそれのある地域個体群）：地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群

④沖縄県 RDB：「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）—動物編—」（沖縄県、平成29年）に記載されている種及び亜種

- ・CR+EN（絶滅危惧Ⅰ類）：沖縄県では絶滅の危機に瀕している種
- ・CR（絶滅危惧ⅠA類）：沖縄県では、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
- ・EN（絶滅危惧ⅠB類）：沖縄県ではⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- ・VU（絶滅危惧Ⅱ類）：沖縄県では絶滅の危機が増大している種
- ・NT（準絶滅危惧）：沖縄県では存続基盤が脆弱な種
- ・DD（情報不足）：沖縄県では評価するだけの情報が不足している種
- ・LP（絶滅のおそれのある地域個体群）：沖縄県で地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれの高いもの

(5) 景観

1) 景観資源の状況

(ア) 文献その他の資料調査

「第3回自然環境保全基礎調査自然景観資源調査報告書(沖縄県)」(1989年、環境庁)では、「視対象である自然景観の骨格をなす地形、地質及び自然景観資源として認識される自然現象」を対象として、その位置、特性、眺望性、利用の現状等について調査が行われており、図3.2.45に示すように海成段丘が自然景観資源とされている。

2) 主要な眺望点及び眺望景観の状況

(ア) 文献その他の資料調査

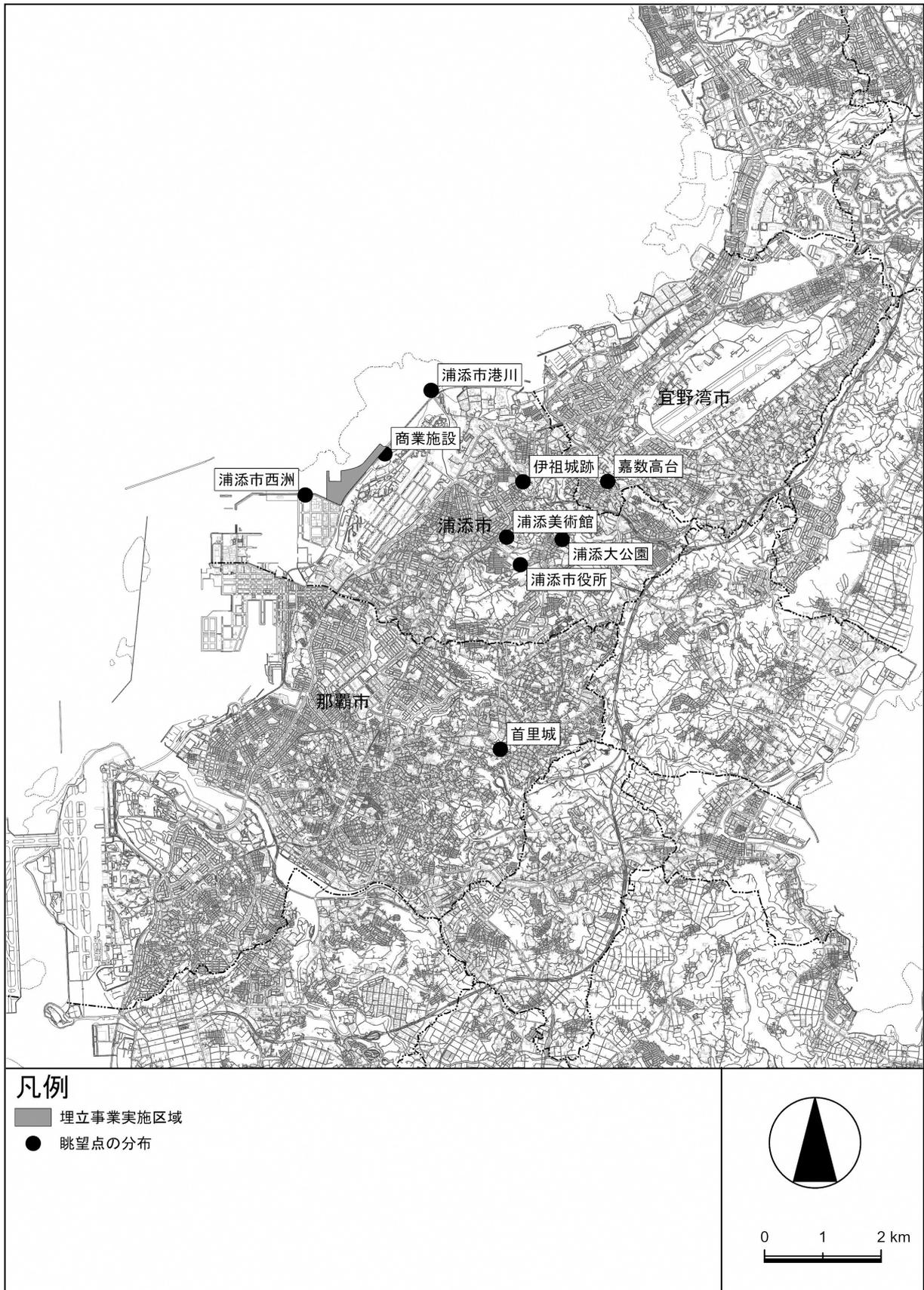
埋立事業実施区域を眺望可能と思われる地点・地域は、表3.2.198に、その位置は図3.2.81に示すとおりである。

埋立事業実施区域は平坦な地形のため、高台に位置する地点からの眺望の可能性が考えられる。それらの地点は、伊祖城跡、浦添市美術館、浦添市役所、浦添大公園、商業施設(浦添サンエーパルクシティ)、嘉数高台及び首里城の7地点となっている。また、埋立事業実施区域近傍においては、浦添市港川及び浦添市西洲が眺望点となる。

表 3.2.198 埋立事業実施区域周辺の眺望点

市別	名称	標高	眺望距離
浦添市	浦添市港川	3m	約130m
	浦添市西洲	3m	約40m
	伊祖城跡	60m	2.4km
	浦添市美術館	50m	2.6km
	浦添市役所	90m	3.1km
	浦添大公園	130m	3.4km
	商業施設	3m	約70m
那覇市	首里城	130m	5.0km
宜野湾市	嘉数高台	90m	3.9km

出典：国土地理院地図



出典：国土地理院地図

図 3.2.81 眺望点の分布

(イ) 既存の現地調査

ア) 調査概要

調査概要は、表 3.2.199 に示すとおりである。

表 3.2.199(1) 既存の現地調査の概要（景観）

調査項目	(a) 眺望景観の状況 ①主要な眺望点の状況 ②景観資源の状況 ③主要な眺望景観の状況 (b) 圍繞景観の状況 ①景観区の区分 ②景観区の状況 ③圍繞景観の価値
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査（現地調査）業務委託報告書
調査時期	夏季の1回。（平成26年7月15～18日）任意の1回
調査位置	図 3.2.82(1)に示すとおり。
調査方法	(a) 眺望景観の状況 ①主要な眺望点の状況 埋立事業実施区域が視認可能な範囲を抽出するため、地図ソフトによる可視領域の抽出し、文献その他の資料等を勘案し、主要な眺望点の地点を抽出した。 ②景観資源の状況 景観資源について、「文化財保護法、条例」で指定された名勝、「第3回自然環境保全基礎調査自然景観資源調査」（環境庁）等の情報の収集等を整理し、抽出された景観資源より、調査対象範囲内を現地踏査し、眺望性の観点に照らして景観資源を抽出した。 ③主要な眺望景観の状況 主要な眺望景観の状況を把握するため、上記より抽出された眺望点及び景観資源について現地調査を行い、日中及び夕方の時間帯に主要な眺望景観及び眺望点の状況等の写真撮影を行い、眺望景観の状況を把握した。 (b) 圍繞景観の状況 ①景観区の区分 埋立事業実施区域及びその周辺の地形、底質の状況、海域生物の現地調査の結果等の整理・分析を行い、景観区を区分した。 ②景観区の状況 景観区の状況として、場の状態、利用の状態、眺めの状態を把握するため、現地調査における写真撮影により把握した。 ③圍繞景観の価値 景観区分に応じた圍繞景観の普遍価値（多様性、自然性、利用性）及び固有価値（固有性、歴史性、親近性）を整理した。

表 3.2.199(2) 既存の現地調査の概要（景観）

調査項目	(a) 眺望景観の状況
実施機関	那覇港管理組合
報告書名	令和3年度那覇港港湾計画環境調査業務委託報告書
調査時期	令和3年11月24日
調査位置	図 3.2.82(2)に示すとおり。
調査方法	調査地点の詳細な位置については、一般市民が立ち入れる場所を想定し、確定した。なお、県営港川市街地住宅は、居住者のみが対象となる。 対象地点において那覇港を望む複数の方角から景観写真を撮影し、主要な眺望景観の状況を把握した。

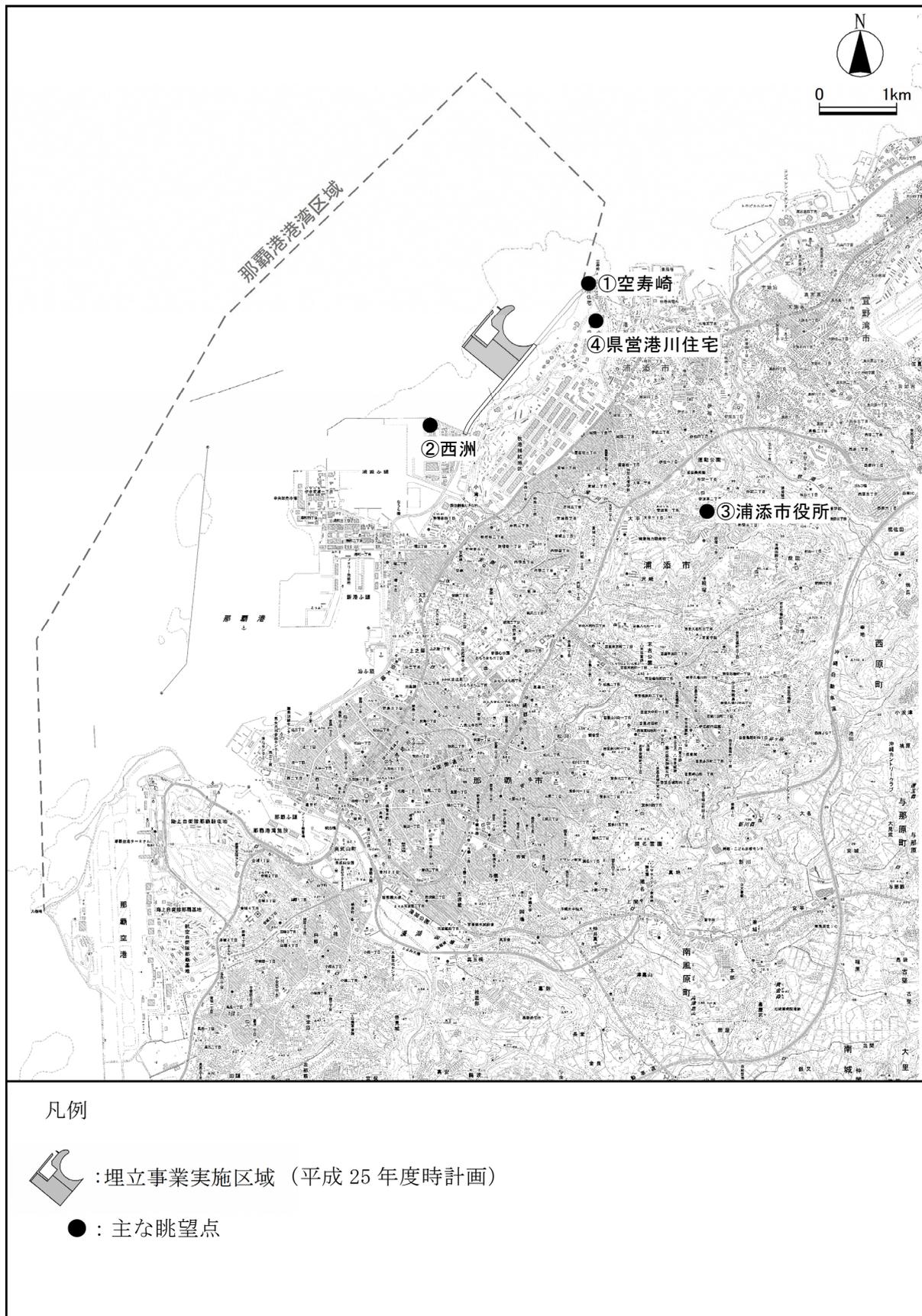


図 3.2.82(1) 既存の現地調査地点（平成 25 年度、景観）



図 3.2.82(2) 既存の現地調査地点（令和3年度、景観）

イ) 調査結果（平成 25 年度）

(a) 眺望景観

主要な眺望点からの眺望景観の状況は表 3.2.200 に、調査地点は図 3.2.82(1)に示すとおりである。

表 3.2.200(1) 主要な眺望景観の状況

主な眺望点	眺望景観の状況（日中）	眺望景観の状況（夕方）
①空寿崎	 <p>[景観資源]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 埋立事業実施区域 ● 干潟・砂浜・岩礁 ● 人工物（橋梁、西洲護岸） 	 <p>[眺望状況]</p> <p>眺望が開けており、埋立事業実施区域北側からの状況を確認できる。</p>
②西洲	 <p>[景観資源]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 埋立事業実施区域 ● 干潟・砂浜・岩礁 ● 人工物（埋立地、キャンプ・キンザー） ● 藻場 ● 史跡・文化財（石切場跡） 	 <p>[眺望状況]</p> <p>眺望が開けており、埋立事業実施区域南側からの状況を確認できる。</p>

表 3.2.200(2) 主要な眺望景観の状況

主な眺望点	眺望景観の状況（日中）	眺望景観の状況（夕方）
③浦添市役所	 <p>[景観資源]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 埋立事業実施区域 ● 干潟・砂浜・岩礁 ● サンゴ類（リーフエッジ） ● 人工物（橋梁、西洲護岸） 	 <p>[眺望状況]</p> <p>展望デッキにおいて、キャンプ・キンザーのマンションの間から埋立事業実施区を望むことができる。</p>
④県営港川住宅	 <p>[景観資源]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 埋立事業実施区域 ● 干潟・砂浜・岩礁 ● サンゴ類（リーフエッジ） ● 人工物（橋梁、西洲護岸） 	 <p>[眺望状況]</p> <p>最上階の11階において、キャンプ・キンザーのマンションの間から埋立事業実施区を望むことができる。</p>

(b) 囲繞景観

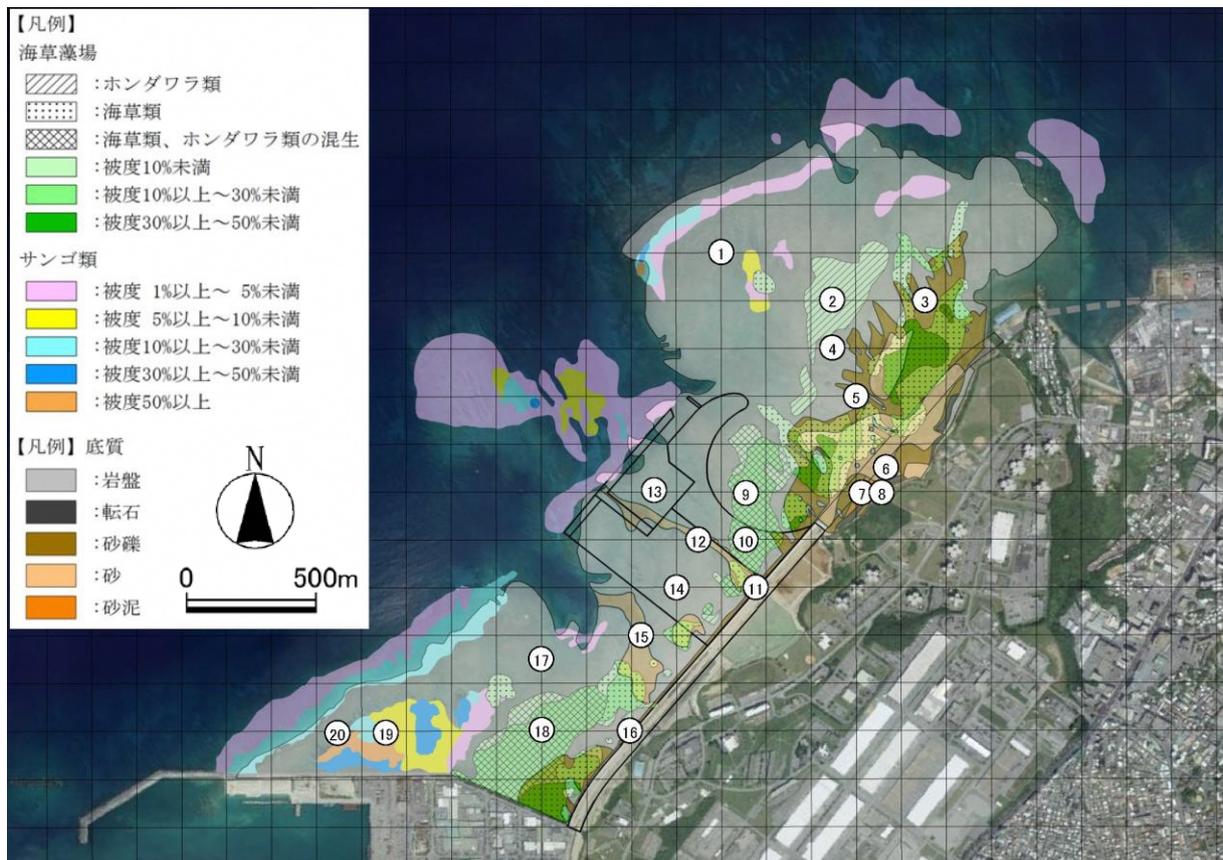
埋立事業実施区域周辺の囲繞景観について、表 3.2.201 に示す景観区分を行い、埋立事業実施区域内外においてそれぞれの景観区分を網羅するよう囲繞景観の地点を設けた（表 3.2.202 及び図 3.2.83）。囲繞景観の景観区の状況は、表 3.2.203 に示すとおりである。また、埋立事業実施区域及びその周辺における囲繞景観の普遍価値及び固有価値は、表 3.2.204 に示すとおりである。

表 3.2.201 囲繞景観の景観区分

地学要素	岩盤、転石、砂礫、砂、砂泥
生物要素	サンゴ類分布域、藻場分布域（海草藻場、ホンダワラ藻場、混成藻場）
自然現象	海域、陸域
人文要素	埋立事業実施区域内、埋立事業実施区域外（南北）

表 3.2.202 囲繞景観の調査位置

地点番号	埋立区分	景観区分	撮影日
①	埋立事業実施 区域北側	岩盤	2014/9/22
②		ホンダワラ藻場	2014/9/22
③		海草藻場	2014/8/24
④		岩盤	2014/8/24
⑤		砂礫	2014/8/24
⑥		混成藻場	2014/9/22
⑦	陸域	砂礫	2014/8/24
⑧		砂泥	2014/8/24
⑨		転石	2014/8/24
⑩	埋立事業実施 区域内	混成藻場	2014/9/22
⑪		砂礫	2014/9/22
⑫		砂	2014/9/22
⑬		岩盤	2014/9/22
⑭	埋立事業実施 区域南側	岩盤	2014/9/22
⑮		砂	2014/9/22
⑯		砂礫	2014/8/25
⑰		岩盤	2014/8/25
⑱		藻場	2014/8/25
⑲		サンゴ類	2014/8/24
⑳	岩盤	2014/8/24	



注：○番号は、表 3.2.202 に対応する。

図 3.2.83 景観区分及び調査地点

表 3.2.203(1) 围绕景观の景观区の状况

①埋立事業実施区域北側・岩盤	⑤埋立事業実施区域北側・砂礫
	
②埋立事業実施区域北側・ホンダワラ藻場	⑥埋立事業実施区域北側・混成藻場
	
③埋立事業実施区域北側・海草藻場	⑦陸域・砂礫
	
④埋立事業実施区域北側・岩盤	⑧陸域・砂泥
	

注：○番号は、表 3.2.202 及び図 3.2.83 に対応する。

表 3.2.203(2) 围绕景观の景观区の状况

<p>⑨陸域・転石</p>	<p>⑬埋立事業実施区域内・岩盤</p>
	
<p>⑩埋立事業実施区域内・混成藻場</p>	<p>⑭埋立事業実施区域内・岩盤</p>
	
<p>⑪埋立事業実施区域内・砂礫</p>	<p>⑮埋立事業実施区域南側・砂</p>
	
<p>⑫埋立事業実施区域内・砂</p>	<p>⑯埋立事業実施区域南側・砂礫</p>
	

注：○番号は、表 3.2.202 及び図 3.2.83 に対応する。

表 3.2.203(3) 围绕景观の景观区の状況

⑰埋立事業実施区域南側・岩盤



⑱埋立事業実施区域南側・藻場



⑲埋立事業実施区域南側・サンゴ



⑳埋立事業実施区域南側・岩盤



注：○番号は、表 3.2.202 及び図 3.2.83 に対応する。

表 3.2.204 圍繞景観の価値の状況

区分	景観区分	圍繞景観の価値		
埋立事業実施 区域内	岩盤 混成藻場 砂 砂礫	普遍価値	多様性	海藻草類がパッチ状に生育し、藻場と海底面の岩礁や砂礫によるモザイク上の景観を形成していることで、多様性を有する。
			自然性	人工構造物もなく自然性が高い。
			利用性	浜下り等で利用されているものの、比較的利用性は低い。
		固有価値	固有性	藻場～海浜植生までの連続性は、本島中部の西海岸において固有性を有する。
			歴史性	人工護岸や埋立地の存在のため、歴史性は低い。
			親近性	潮干狩り、浜下り等による利用は少ないものの、階段式護岸により埋立地からアクセスが可能瀬あることから、今後の利用が期待される。
埋立事業実施 区域外	岩盤 海藻藻場 ホンダワラ藻場 混成藻場 サンゴ 砂 砂礫	普遍価値	多様性	海藻草類がパッチ状に生育し、藻場と海底面の岩礁や砂礫によるモザイク上の景観を形成していることで、多様性を有する。
			自然性	人工構造物もなく自然性が高い。
			利用性	潮干狩り、浜下り等で利用されており、アクセスルートに近いことから利用性を有する。
		固有価値	固有性	藻場～海浜植生までの連続性は、本島中部の西海岸において固有性を有する。
			歴史性	空寿崎周辺のごく一部においては人工的改変が少なく、歴史性を有するものの、その他の場所においては人工護岸や埋立地の存在のため、歴史性は低い。
			親近性	潮干狩り、浜下り等で利用されており、親近性を有する。
陸域	砂泥 砂礫 転石	普遍価値	多様性	干潟から海浜植生帯まで変化がみられていることから多様性を有する。
			自然性	背後に海浜植生帯が確認できるものの、前面に臨港道路浦添線の橋梁部が視認でき、コンクリートがらなどが散在していることから自然性は低い。
			利用性	現在、人の利用は見られていないものの、階段式護岸により埋立地からアクセスが可能瀬あることから、今後の利用が期待される。
		固有価値	固有性	浦添ふ頭地区における限られた砂浜が存在することから、固有性を有する。
			歴史性	キャンプ・キンザーの管理区域内に隣接しており、
			親近性	現在、人の利用もほとんどないことから、歴史性及び親近性は低い。

ウ) 調査結果 (令和3年度港湾計画)

主要な眺望点からの眺望景観の状況は図 3.2.84 に、調査地点は図 3.2.82(2)に示すとおりである。



図 3.2.84(1) 眺望景観の状況 (県営港川市街地住宅)



図 3.2.84(2) 眺望景観の状況 (大型商業施設屋上)



図 3.2.84(3) 眺望景観の状況 (浦添市役所)



図 3. 2. 84(4) 眺望景観の状況（新港ふ頭地区）



図 3. 2. 84(5) 眺望景観の状況（泊大橋）



図 3. 2. 84(6) 眺望景観の状況（波上宮）

(6) 人と自然との触れ合い活動

1) 人と自然との触れ合い活動の場の状況

(ア) 文献その他の資料調査

表 3.2.205 及び図 3.2.85 に示すように、埋立事業実施区域及びその周辺地域における主たる人と自然との触れ合い活動の場としては、伊祖公園、浦添運動公園、浦添大公園など 11 の施設がある。

表 3.2.205 人と自然との触れ合い活動の場の状況

市別	名称	眺望距離
浦添市	伊祖城跡・伊祖公園	約 2.2km
	浦添運動公園	約 3.4km
	浦添大公園	約 3.6km
那覇市	首里城公園	約 4.9km
	波の上ビーチ	約 4.1km
	波の上緑地	約 4.3km
	若狭海浜公園	約 3.9km
	旭ヶ丘	約 4.1km
宜野湾市	宜野湾海浜公園	約 3.0km
	森川公園	約 3.4km
	トロピカルビーチ	約 2.8km

出典 1:「浦添市市勢要覧2018」(2018年3月、浦添市)

2:「那覇市公園・緑地配置図」(2019年3月、那覇市HP)

3:「ちゅらぶらり 観光スポット」(2023年4月、宜野湾市HP)



- 出典 1：「那覇港湾計画資料（その2）」（令和5年3月、那覇港湾管理者）
 2：「浦添市市勢要覧 2018」（2018年3月、浦添市）
 3：「那覇市公園・緑地配置図」（2019年3月、那覇市HP）
 4：「ちゅらぶらり 観光スポット」（2023年4月、宜野湾市HP）

図 3.2.85 人と自然との触れ合い活動の場の状況

(イ) 既存の現地調査

ア) 調査概要

人と自然との触れ合い活動の場の調査概要は表 3.2.206 に示すとおりである。

表 3.2.206 既存の現地調査概要（人と自然との触れ合い活動の場）

調査項目	人と自然との触れ合い活動の場
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	平成 31 年度那覇港浦添ふ頭地区北側緑地整備事業に係る環境調査（存在及び供用）業務委託報告書
調査時期	平成 18 年度～平成 31 年度の浜下りの日及び前後の休日
調査位置	図 3.2.86 に示すとおり
調査方法	埋立事業実施区域及びその周辺における、人の立ち入り状況を把握するため、アンケート調査を行うとともに、見通しのきく地点からのカウント調査を行った。

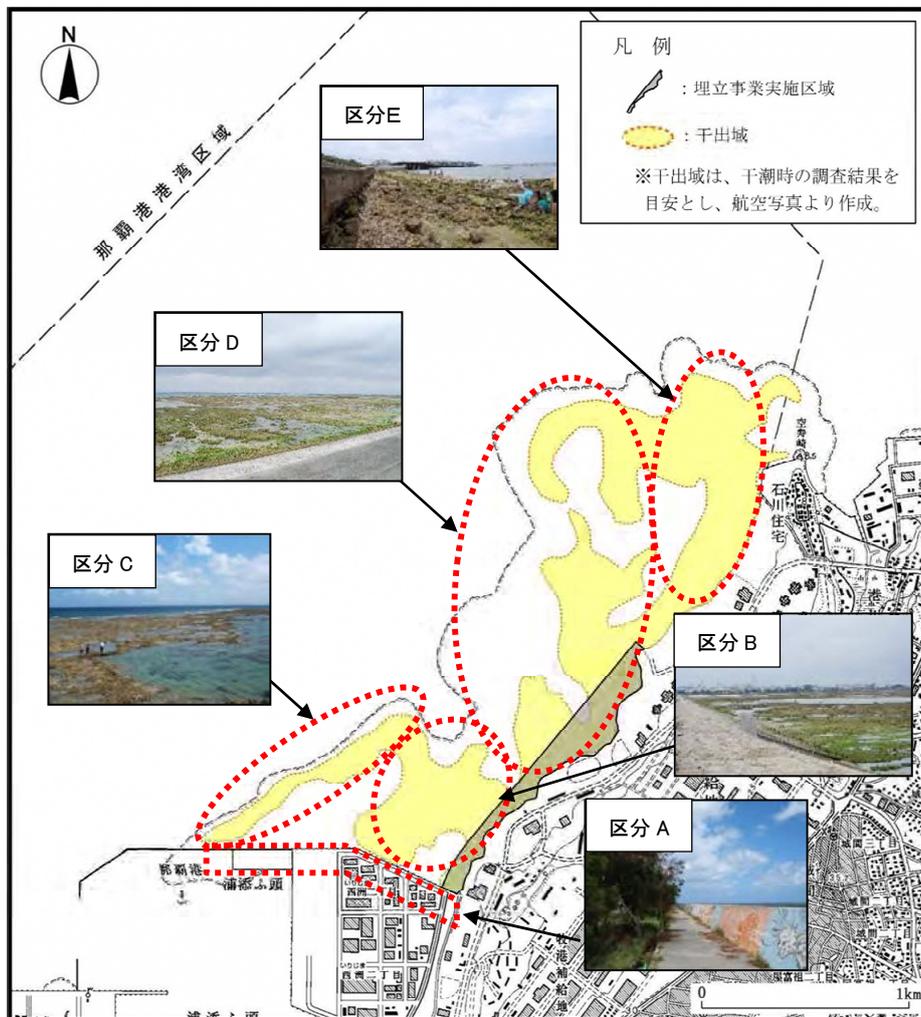


図 3.2.86 既存の現地調査対象範囲における活動区の区分（平成 31 年度）

イ) 調査結果

利用者数について、平成31年度の調査では過年度に比べ利用者が多くみられた。4月7日（浜下り日/休日）は、天候が晴れていたことや浦添北道路、臨港道路浦添線が開通したことによりはじめて利用する人が増えたことが要因と考えられた（なお、サンエー浦添西海岸パルコシティは開店前）。

利用形態は、休日、浜下り日ともに潮干狩りが最も多い状況であり、主な利用形態に大きな変化はみられなかった。近年では、これまでの利用形態に加えて、海水浴・浜遊び、休憩・散歩及び釣りが比較的多くみられていた。

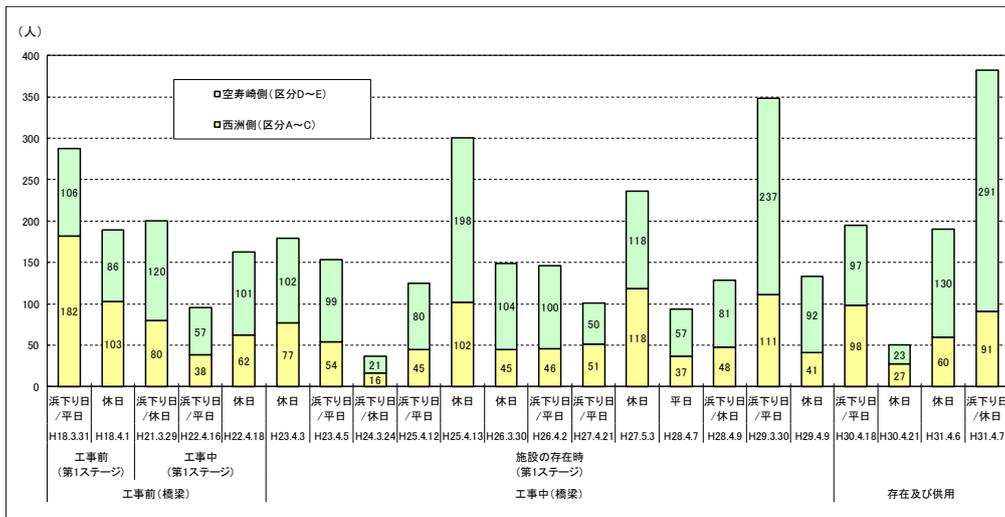


図 3.2.87 活動区の利用者数の変化

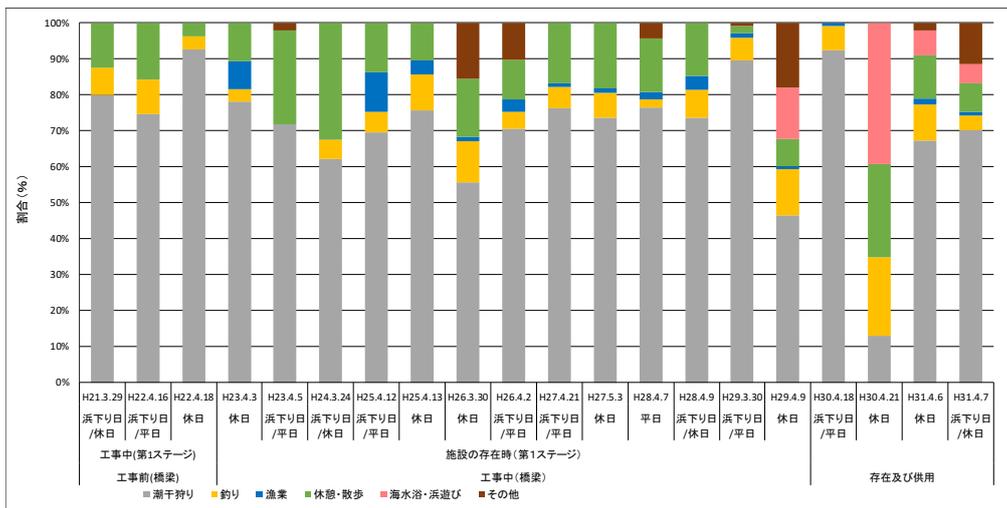


図 3.2.88 利用形態の経年変化

(7) 歴史的・文化的環境

1) 史跡等の分布状況

(ア) 文献その他の資料調査

ア) 史跡・名勝・天然記念物

「文化財保護法」(昭和25年5月法律第214号)に基づく史跡・名勝・天然記念物については、沖縄県教育庁文化財課がとりまとめた「令和4年度版 文化財課要覧」に整理されている。関係3市における指定状況は、表3.2.64、図3.2.22に示すとおり、国指定の史跡・名勝及び天然記念物が16件、市指定の史跡・名勝及び天然記念物が53件である。

イ) 埋蔵文化財包蔵地

関係3市における「文化財保護法」に基づく埋蔵文化財包蔵地(遺跡)は、埋立事業実施区域周辺では、表3.2.65及び図3.2.23に示すように、計384件が指定されている。

ウ) その他の文化財

埋立事業実施区域周辺では、「文化財保護法」に基づく指定はされていないが、地域の伝統的な行事及び祭礼等の場として信仰の対象となっている拝所や井泉及び湧水などが存在する。その他の文化財の状況は表3.2.207及び図3.2.89に示すとおりである。

また、「浦添市西海岸の石切場跡」(平成22年3月、浦添市教育委員会)では、那覇港(浦添ふ頭地区)公有水面埋立事業に先立ち埋立予定地にかかる字城間から仲西にかけての石切場跡4か所の記録保存調査が行われている。

表 3.2.207 その他の文化財の状況

(単位：箇所)

地区	拝所	井戸及び湧水	洞穴
浦添市	14	20	30
那覇市	140	44	52
宜野湾市	12	12	55

出典(拝所)：「土地保全図付属資料(沖縄県)」(平成6年3月、国土庁土地局)

(井戸)：「沖縄県主要水系調査書(沖縄本島中南部地域)」(平成元年3月、沖縄県企画開発部 土地利用対策課)

(洞穴)：「沖縄県戦争遺跡詳細分布調査 中部編」(平成14年3月、沖縄県立埋蔵文化財センター)

「沖縄県戦争遺跡詳細分布調査 本島周辺離島及び那覇市編(平成16年3月、沖縄県立埋蔵文化財センター)



凡例

- 埋立事業実施区域
- 拝所
- 洞穴
- ▲ 井戸及び湧水



0 1 2 km

出典：「土地保全図付属資料(沖縄県)」(平成 6 年 3 月、国土庁土地局)、「沖縄県主要水系調査書(沖縄本島中南部地域)」(平成元年 3 月、沖縄県企画開発部 土地利用対策課)、「沖縄県戦争遺跡詳細分布調査 中部編」(平成 14 年 3 月、沖縄県立埋蔵文化財センター)、「沖縄県戦争遺跡詳細分布調査 本島周辺離島及び那覇市編」(平成 16 年 3 月、沖縄県立埋蔵文化財センター)

図 3.2.89 拝所・井泉及び洞穴位置

(8) 廃棄物等

沖縄県内において、文献その他資料、関係機関への聴き取り調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析により廃棄物の処理並びに処分等の状況を把握した。

浦添市、那覇市及び宜野湾市の廃棄物処理施設の整備状況を表 3.2.208～表 3.2.212 に示す。

浦添市は、市内に一般廃棄物処理施設、粗大ごみ処理施設及び廃棄物再生利用施設を整備している。

那覇市、宜野湾市の一般廃棄物及び粗大ゴミは対象区域外で処理されており、那覇市は那覇市・南風原町環境施設組合(所在地:南風原町)、宜野湾市は倉浜衛生施設組合(所在地:沖縄市)で処理されている。廃棄物再生利用処理施設について、那覇市は南風原町で処理され、宜野湾市には廃棄物再生利用処理施設はない。

産業廃棄物処理は関係3市ともに、民間処理施設で処理されている。

表 3.2.208 ごみ処理施設整備状況

実施主体	構成市町村	所在地	規模 (t/日)	処理方式	炉の形態
倉浜衛生施設組合	沖縄市、宜野湾市、北谷町	沖縄市池原3394	309	ガス化溶解	103t/24h×3炉
那覇市・南風原町環境施設組合	那覇市、南風原町	南風原町字新川650	450	全連続+灰溶解	150t/24h×3基
浦添市	浦添市	浦添市伊奈武瀬1-8-1	150	全連続+灰溶解	75t/24h×2基

注) 表中の数値は令和4年3月末現在

出典) 「廃棄物対策の概要」(令和5年3月、沖縄県環境部環境整備課)

表 3.2.209 一般廃棄物最終処分場整備状況

実施主体	構成市町村	埋立面積 (m ²)	埋立容量 (m ³)	令和2年度末(推計) 残余容量(m ³)
倉浜衛生施設組合	沖縄市、宜野湾市、北谷町	38,000	400,000	197,729
那覇市・南風原町環境施設組合	那覇市、南風原町	13,000	107,000	53,357

注) 表中の数値は令和4年3月末現在

出典) 「廃棄物対策の概要」(令和5年3月、沖縄県環境部環境整備課)

表 3.2.210 粗大ごみ処理施設整備状況

実施主体	構成市町村	規模(t/日)	処理方式	竣工年月
倉浜衛生施設組合	沖縄市、宜野湾市、北谷町	7	選別	H22.3
浦添市	浦添市	25	破碎	S57.12
那覇市・南風原町 環境施設組合	那覇市、南風原町	39	併用	H18.3

注) 1. 処理方式の併用とは、粗大ごみの破碎と圧縮の両方の処理を行うこと

2. 表中の数値は令和4年3月末現在

出典) 「廃棄物対策の概要」(令和5年3月、沖縄県環境部環境整備課)

表 3.2.211 廃棄物再生利用施設整備状況(リサイクルプラザ)

実施主体	構成市町村	施設規模	所在地
那覇市	那覇市	53t/8h	南風原町字新川
浦添市	浦添市	40t/5h	浦添市伊奈武瀬

注) 1. 数値は、令和4年3月末現在

2. 所在地は、那覇市、浦添市ホームページより確認

出典) 「廃棄物対策の概要」(令和5年3月、沖縄県環境部環境整備課)

表 3.2.212 産業廃棄物処理施設の許可状況

分類	設置会社名	処理能力(t/日)	設置場所	処理品目
焼却施設	(株)拓琉金属	3	浦添市港川	廃油、廃プラ

注) 数値は、令和4年3月末現在

出典) 「廃棄物対策の概要」(令和5年3月、沖縄県環境部環境整備課)

(9) 放射線の量

「環境影響評価技術ガイド（放射性物質）（環境省 2015）」によると、一般環境中の放射性物質の環境基準等の基準は定められておらず、汚染状況の指標として「空間線量率」によって把握することが想定されている。

埋立事業実施区域に最も近いモニタリングポストは那覇市（沖縄県庁）であり、令和2年度の空間放射線量率の範囲は、0.041～0.081 $\mu\text{Sv/h}$ である。

表 3.2.213 那覇市（沖縄県庁）の空間放射線量率

単位： $\mu\text{Sv/h}$

測定地点名	調査結果			比較対象①			比較対象②		
	令和2年4月～令和3年3月			平成29年4月～令和2年3月			平成20年1月～平成22年12月		
那覇市 (沖縄県庁)	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値
	0.041	0.081	0.044	0.041	0.095	0.044			

注) 1. 環境放射能水準調査等は10分値、環境放射線等モニタリング調査は1時間値の最大値、最小値及び平均値。

2. 空欄は、放射線モニタリング情報及び環境放射線データベースに調査結果が登録されていない。

出典) 「全国の空間放射線量率（令和2年4月～令和3年3月）」（環境省ホームページ）

<https://www.env.go.jp/content/900518759.pdf>